

一言

ESG投資と企業経営

うまでもない。

ESG投資への対応としては、投資家目線で企業活動を説明していくことである。CSR情報を財務情報と別々に報告するのではなく、事業戦略にCSRの要因がどう組み込まれているかを説明する「統合報告」が対策の一つである。

具体的には、事業計画策定の中核である経営企画部や実際に推進する事業部門とCSR部が積極的に連携することである。そこに投資家との対応窓口であるIR担当者が加わり、自社の企業価値を説明するロジックを組み立てていくことだ。

コンサルティング
取締役代表

えづみ 野海

投資家の間でEnvironment(環境)、Social(社会)、Governance(統治)の3要素の評価を盛り込んだ「ESG投資」に関心が寄せられている。長期の業績を評価する上では、財務ばかりでなくESGに目を向ける必要があるためだ。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)によるESG株価指数の採用を契機に、多くの機関投資家が参入をはじめている。

環境、社会分野に配慮した投資といえ

ば、SRI(社会的責任投資)がこれまでも行われてきた。今、ESG投資として衣替えして注目される背景は、このような非財務の要因が企業価値の創造の上で重要になっているためである。

気候変動や高齢化などの社会問題は世界中で深刻度を増し、社内では働き方改革やダイバーシティへの対応が経営上の課題になっている。企業統治にいたっては、ガバナンス・コードが規定されその重要性の認識が広まったことは改めてい